

令和6年度第1回学校関係者評価委員会議事録

日 時：令和6年5月28日（火）13：00～14：05

場 所：千葉経済大学 大会議室

出席者：

1	佐久間 勝彦	理事長・大学学長・短期大学部学長・高校校長
2	佐久間 美羊	副理事長・短大副学長・教授
3	吉田 悦教	常任理事・特任教授
4	山浦 裕幸	大学副学長・経済学部長・教授・理事・評議員
5	横山 洋子	短大こども学科長・教授・評議員
6	原田 浩二	高校副校長・評議員
7	平林 隆	法人事務局長・大学・短期大学部事務局長・理事・評議員
8	横田 秀人	高校教頭・評議員
9	秋元 浩	千葉経済大学附属高等学校同窓会会長・評議員
10	亀田 洋子	千葉経済大学短期大学部同窓会会長・評議員
11	鹿島 富士夫	千葉経済大学同窓会会長・評議員
12	幅 淳徳	千葉経済大学父母の会会長・評議員
13	濱詰 大介	千葉経済大学短期大学部後援会会長
14	藤井 修	千葉経済大学附属高等学校父母の会会長・評議員
15	畠山 一雄	(学)畠山学園理事長・評議員
16	茂手木 直忠	医療法人社団直心会理事長・校医・産業医・評議員
17	影山 美佐子	ビジネスライフ学科長・教授・評議員
18	勝又 隆一	勝又自動車株式会社 代表取締役社長・評議員
19	山口 和夫	(株)さつま屋社長・評議員
20	村松 重彦	(学)聖メリー学園・小ばと幼稚園理事長、園長・評議員
21	石渡 哲彦	株式会社千葉銀行顧問・評議員
22	佐久間 道子	評議員
23	栗沢 尚志	教授・評議員
24	藤代 謙二	(株)ちばぎん総合研究所顧問・評議員
25	藤生 裕	大学経済学部長・経済学科長・教授・評議員
26	積田 悟	前高校副校長・評議員
27	青柳 俊一	(株)千葉興業銀行会長・学園監事
28	植松 省自	税理士法人京葉会計事務所代表社員・学園監事

1. 開会のあいさつ

2. 理事長あいさつ

議題

【1】令和5年度事業報告について

議長の指名により、平林 隆 法人事務局長、浅井 優規 会計課課長補佐から、別添1「学校法人千葉経済学園令和5年度事業報告書」に基づき、法人の概要、事業の概要、財務の概要について説明がなされた。

事業の概要

建学の精神「片手に論語 片手に算盤」及び校是・校訓に基づき、教育の質の確保・向上を図り、良識と創意に満ちた感性豊かな人材の育成の実現に向けて教育研究を推進した。

学園の発展を期するために、学生・生徒数の確保と徹底したコスト抑制を行い、財務体質の健全化を図りつつ、教育環境の整備充実を行った。

令和5年度に実施した事業の主な内容は次のとおりである。

[千葉経済学園]

(1) 建学の精神の啓蒙

建学の精神「片手に論語 片手に算盤」について、「今月の論語」の教室掲示や総合図書館の「論語コーナー」設置等の多様な取組みを通じて周知徹底を図った。

(2) 学園創立90周年事業

学園90周年記念誌の発行によって「故きを温ねて新しきを知る」とともに、学園の更なる飛翔を願って創立記念式典を11月15日(水)の学園創立記念日に挙行了。さらに、創立100周年を見据えた寄付募集活動の推進について検討し、令和6年度より募集活動を開始することとした。

(3) 大学・短期大学・附属高校の三者連携推進

「千葉経済学園三者連携会議」を軸に、教育、入試、進路指導、広報、ボランティア活動等にわたって三者間の密なる機能連携を図った。

(4) 感染拡大対策を講じての教育展開

新型コロナウイルス感染拡大に対する防止対策措置を継続し、文部科学省の指針を踏ま

えた授業運営により教育の質の充実に努めた。

(5) 資格取得奨励

各種検定・資格の取得を奨励し、高度資格の取得者には奨励金を授与した。

(延べ人数で大学 51名、短期大学 34名、高校 57名)

(6) 広報活動の充実・強化

令和5年度は学園創立90周年にあたることから、令和4年度に制作した学園90周年記念誌を各方面に配布するとともに、記念動画を制作し、本学の歴史と本学が地域に果たしてきた役割などについて発信した。

また、高校・短期大学・大学進学適齢人口が長期趨勢的に減少していることを踏まえ、学園の魅力や強みを発信し、認知度の向上を図るため、以下のとおり様々な広報手段を用いて広報活動を実施した。オープンキャンパス参加者には、教職員が一体となって学園の魅力や強みを伝えるとともに、来訪後も継続的に情報発信することにより、志願・入学へと誘導するよう努めた。

① 大学・短期大学の広報活動

○リニューアル更新してイメージを一新したホームページを活用し、時機を得た情報発信と記事の一層の充実を図った。

○進学情報サイトを活用し、受験生対象に本学の情報を発信した。また、各サイトの検索で上位に本学名が出るよう、SEO (Search Engine Optimization) 対策を検討した。

○大学については、女子学生をターゲットとした進学雑誌に本学学生の写真・コメントを紹介し、女子高校生に経済学・経営学を学ぶ魅力を発信した。

○短期大学の両学科については、Instagramを中心にSNSの発信の強化に努めた。広報研修での講師からの助言を踏まえ、学生を広報大使に任命し、インスタライブを数回にわたり実施するなど、高校生が関心を持つ媒体による動画配信を実施した。また、高校生の利用が多いTiK Tokによる発信を開始した。

○専任職員が定期的に高校訪問を行うとともに、特に短大においては教員が県内全域の指定校訪問や電話連絡等をきめ細かく行い、高校との信頼関係の継続に努めた。

○各高校や進学関連業者が開催する「進路ガイダンス」では、高校の希望に応じて大短の教員が模擬授業を実施するほか、職員が本学の魅力や強みを紹介することなどにより、本学の認知の向上とオープンキャンパス参加の誘導を図った。

○附属高校の生徒・保護者に対しては、進路ガイダンス、本学を経て社会で活躍する先輩を紹介するチラシの掲示、ミニキャンパスツアーや授業公開の実施など、あらゆる機会を通じて大学、短大に関する情報を発信した。

○県外の会場ガイダンスに参加するとともにホームページの内容を充実させることにより、県外の高校生にも積極的に情報発信した。

② 附属高校の広報活動

普通科・商業科・情報処理科の3学科を設置する「懐の深い高校」であることを、ホームページや KEIZAI ニュースで周知した。部活動や資格取得などで頑張る生徒を心から応援する学校であることを広く知らしめ、向学心のある生徒の入学に努めた。

(7) 地域社会との連携

- ① 「ちば産学官連携プラットフォーム」は協定締結6年目となり、他大学・短期大学、自治体・産業界と連携して学生募集・教育活動・就職支援・生涯学習・地域支援の推進を図った。
- ② 「千葉都市モノレール株式会社」との相互連携協定は締結6年目、「千葉市稲毛区」「公益財団法人千葉県文化振興財団」との相互連携協定も締結5年目となった。それぞれの特徴や資源を活用しながら情報発信、教育・人材育成など、各分野での連携を図った。
- ③ 株式会社千葉ジェッツふなばしとの「オフィシャルサプライヤー契約」は契約締結から5シーズン目となり、引き続き、ユース選手の練習に短期大学体育館を提供するとともに、ユース選手の奨励奨学金制度をサプライ内容とする契約を更新し、チーム応援呼称権、コートサイド LED や U18・U15 ユニフォームシャツ（背中）へロゴを掲載する権利・役務の提供を受けた。
- ④ 「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」は、参加団体が計15団体となり、令和3年の設立時会員として、引き続きアントレプレナーシップ教育に関する連携を図った。

(8) ボランティア活動の推進

学園ボランティアセンターが中心となって、地域の関係団体と連携したボランティア活動を推進し、学生・生徒に「利他の精神」を育んだ。

地域からのニーズに応える形で、「X Games CHIBA 2023」、「青葉の森リレーマラソン」、「千葉県誕生150周年記念行事オープニングイベント」、「稲毛せんげん通りまつり」、「シャルム西千葉夏まつり」、「千葉シティトライアスロン」、「千葉・県民文化祭「中央行事」」、「くさ野あかり祭り（夜灯）」、「こども夢の商店街」などでのボランティア活動を行った。

また、能登半島地震の被災地支援のため、米屋株式会社との共同開発商品（羊羹）の販売と募金活動で得た金銭を被災地に寄付した。活動の様子は、多くの新聞やテレビに大きく取り上げられた。

(9) FD及びSDの充実

大学・短期大学では「SD（教職員の職能力向上のための研修）推進計画」を踏まえ、

F D（教員の教育力向上のための研修）と連携して、組織的・体系的な研修の充実を図った。

ハラスメントについての研修は、附属高校の職員も含めて学園として取り組み、「ハラスメント対策・防止について」をテーマに実施し、その防止と排除に努めた。

また、千葉ジェッツふなばしの取締役事業本部長を招き、教職員向けに「広報について」をテーマに認知を広めるブランディング戦略についてお話をいただくとともに、SNSを中心とした具体的な広報戦術を学んだ。

学園事務局では部局を超えた協働・協力体制を整え、そのうえで教職協働によって学園の教育環境の充実を図った。

（10）学園情報のデジタル化・データベース化と学生ポータルサイト・LMS（教育支援システム）の取り組み

①学園全部門の文書資料の体系化とデジタル化及びデータベース化については、文書管理システム（楽々Document Plus）の導入に向け、費用対効果を踏まえつつ、継続して検討することとした。

②大学・短期大学においては既存の教務システムに加えて入試・就職支援システムの導入を引き続き検討し、データの一元管理及び業務の効率化に繋げるよう取り組んだ。

③令和4年度に導入した学生ポータルサイトとLMSを活用して、大学及び短期大学の学生への連絡及びICT教育の充実を図り、機能改善を行った。

④大学2号館1階、短期大学、附属高校の無線LANの電波環境改善のために、アクセスポイントの追加と再配置を行った。

（11）働き方改革関連法への対応

働き方改革関連法を踏まえて労働条件の改善に努め、雇用形態の異なる職員間に均衡の取れた待遇がされるように規程整備の検討を行った。

（12）防災備蓄の整備

引き続き、学生・生徒・教職員用に非常用食料や保温シート等の防災用品を計画的に備蓄し、災害時に備えた。

〔千葉経済大学附属高等学校〕

（1）「令和の日本型学校教育」構築に向けた教育の充実

「主体的・対話的で深い学び」の実現に努め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を適切に連動させて、生徒一人ひとりの可能性を引き出す授業展開に努めた。

(2) 観点別評価を活かした学習評価とキャリアパスポートによる指導の充実

観点別評価を導入し3観点(「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」)の学習評価に取り組んだ。また、生徒には、キャリアパスポートにより自らの学習状況やキャリア形成支援の充実に努めた。

(3) 教育環境の整備

- ① 新校舎の空調機器更新工事は、2～3年目工事分を部品調達の制約に鑑み、一括して令和4年度に実施した。それにより新校舎全体の空調機更新工事は完了した。
- ② 各教室、体育館でWi-Fiが利用できるように無線LAN環境を整備した。
- ③ 全教員(非常勤教員含む)を対象としてSurface Go 3を導入した。
- ④ 既存パソコン教室に加えて、パソコン41台を備えたパソコン教室(1教室)を新設した。

(4) 授業内容の充実による学力の向上

令和5年度入学生からの新教育課程への初年度として、1学年の指導内容について、各教科内で指導の充実と統一性を図るよう教材研究を進めた。また、生徒自身が自らの学習を振り返って学習に向かうことができるようにするための、3観点による観点別評価が的確に行えるよう努めた。授業におけるICTの有効利活用については、教員へのタブレット配布が完了し、令和5年度生からのタブレット導入に向け準備を進めた。

(5) 特進クラスの教育充実と大学進学実績の向上

特進プロジェクトチームによる、進学への意識向上に向けた指導や、特進講座・特進補習により学力の向上・定着を図ってきた。その結果、今年度の特進クラス3年生は、千葉大学の教育学部をはじめ明治大学・同志社大学・立命館大学など多くの難関大学への合格実績を出すことができた。

(6) 専門科教育の充実

専門科の目標とする資格取得において、商業科1年生の簿記3級合格率は98%、情報処理科では、情報処理検定3級合格者は全体の93.7%であった。高度資格についても、ITパスポートに17名合格するなど、多くの成果を出すことができた。

商業科の課題研究においては開発商品の販売実習を文化祭で行うとともに、千葉ペリエや椿森コナムなどで実施した。

また、昨年に引き続き商業科1年生対象に、株式会社ZOZO(フレンドシップマネージメント部)による講演を「楽しく働く」のテーマで実施した。

(7) 部活動の振興

適正な部活動運営に務めながら、結果も残すことができた。

運動部においては、ソフトボール部・バスケットボール部・卓球部・自転車競技部・ボクシング部・柔道部が関東大会・全国大会に出場し、ソフトボール部は全国3位となった。文化部についても、珠算部・将棋部・軽音楽部・バトントワラーズ部が全国大会に出場した。

(8) 定員確保のための生徒募集活動の遂行及び広報活動

オープンキャンパス・入試説明会は昨年に引き続き予約制とし、参加人数の上限を決めて開催するなど感染拡大防止策をとりながら、入試広報委員会を中心に全職員で生徒募集にあたった。定員を上回る639名の新入生を確保することができ、情報処理科が依然として人気が高かった。普通科の文理一般コースの歩留まりが予想を上回った。

(9) いじめ及び体罰の防止

いじめについては、教員相互の協力のもと早期発見に努め、深刻となるような問題は発生しなかった。

(10) 教員研修の充実

新型コロナウイルス感染の影響も収まりつつある中、今年度は中高協会主催の初任者研修に参加するなど、校内における研修と併せて、高教研等外部の研修にも積極的に参加した。

以上

【2】令和5年度決算について

議長の指名により、浅井 優規 会計課課長補佐から、令和5年度決算について別添2「令和5年度 学校法人計算書」に基づき、資金収支決算額、事業活動収支決算額及び令和6年3月31日現在の貸借対照表について説明が行われた。続いて、議長から本決算に関する意見を求めたところ、青柳 俊一 監事から、青柳 俊一、植松 省自 両監事より提出された監査報告書（資料1）に基づき学園の業務及び財産に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことが認められた旨報告がなされた。

【3】その他（報告事項等）

議長の指名により、原田 浩二 高等学校副校長より高等学校の満足度調査結果についての報告があった。

満足度調査結果 全科全学年＜R6年3月度＞

授業の満足度が前回調査（昨年7月調査）と比較してほぼ横ばい状態でした。5項目平均満足度（満足度、授業、先生、友人、自己の成長）は0.1%上昇したという結果です。今後も、工夫をしながら生徒達の学力向上に努めてまいります。

・意見

基本情報技術者試験やITパスポート試験等の高度検定資格は、社会に出て役に立つ資格です。多くの生徒が取得しておりますが、今後も多くの生徒が取得出来るようにご努力願えればと思いますとの意見が出された。

学園創立100周年に向かって、募金活動の方もしっかりやって頂きたいと思いますとの意見が出された。